

1. 授業の実際 授業校 千葉市立新宿中学校 授業者 鈴木 俊

(1) 単元名 球技「バレーボール」

(2) 本時の目標 ・個人技能を高め、仲間と連携しながらパスをつなぐことができる。(技能)
 ・相手側のコートに空いた場所を攻撃するように工夫している。(思考・判断)

(3) 本時の展開 (8 / 1 2)

課程	学習活動	指導上の留意点および支援の工夫 評価項目 (方法)
はじめ	1 本時のグループ目標を確認し、記入する。 2 整列・挨拶・健康観察を行う。 3 本時の学習内容やねらいを確認する。	・体育館に来たグループから学習カードに記入してあるグループ目標を確認し、リーダーがホワイトボードに記入する。 ・本時の学習内容を話し、授業に見通しをもって活動させる。
	仲間と連携して攻撃を組み立て、相手側のコートに返球する場所を考えながら攻防を展開しよう。	
	4 ランニング・準備運動・補強運動を行う。 ・4班に分かれて、所定の位置で準備運動する。	・チームごとに集まり準備運動係を中心に体操・補強運動を行わせる。
なか	5 ドリルゲーム ○30秒直上前進パス（オーバー、アンダー） ・30秒間でコートを進む。 ・ネットでのボールコントロールは上を越しても、下を通してよい。 ・途中で落としたときは最初からやり直す。	<オーバーハンドパスのポイント> ・おでこの延長線上でボールをとらえられるように足を動かそう。 ・腕を上げて肘を曲げ、体を中心に左右に2つのきれいな三角形を作ろう。 ・指先でボールを弾く感覚で捉えよう。
	・オーバーハンドパスで30秒間行う。 ・アンダーハンドパスで30秒間行う。 ・グラウンド側をスタートとし、30秒間で行けるところまで前進する。ネットを超えて反対側をゴールとする。 ○記録 ・ペアの前進できた距離を学習カードに記入する。 (蛍光ペン等で塗りつぶす)	<アンダーハンドパスのポイント> ・肘を伸ばし、手首よりやや体に近い位置でボールを捉えよう。 ・膝の曲げ伸ばしでボールをレシーブしよう。 ・見ている生徒（ペア）にも隣同士がぶつからないように声をかけさせる。 ・努力を要する生徒に対して個別に説明したり、師範したりするなどして技能のポイントをつかめるよう支援する。
	6 タスクゲーム 「相手側のコートに空いた場所」を意識したゲーム ・チームごとに整列して、タスクゲームの目的やルールを理解する。	・攻撃側はパスを回しながら、相手側のどこに返球するのかがグループで声を出させる。 *相手側のコートに空いた場所を攻撃するように工夫しているか。(思考・判断、観察)
まとめ	7 学習のまとめをする。 ○学習カードを記入する。 8 挨拶をする。	・グループでまとまって意見を出し合い、記入させる。 ・今まで学んだことをリーグ戦で発揮できるようにさせる。

2. 成果と課題

- (1) 相手側の空いている場所を攻めることで、有効に点数をとれることができた。また、グループで活動したことで作戦を立てるなど話し合い活動の場面が増えた。
- (2) ボールをコントロールする技能がなく、実践形式の試合でタスクゲームを活かしきれなかった。